

厚生労働省

厚生労働科学研究費補助金

障害保健福祉総合研究事業

アルコール依存症のリハビリテーション施設と  
支援プログラムの在り方に関する研究

平成15年度

研究報告書

白倉班

主任研究者 白倉克之

平成16年3月

## 目 次

1. 総括研究報告書…………… 1  
主任研究者 白倉克之
2. アルコールリハビリ作業所及び成人の飲酒実態と  
関連問題に関するアンケート……………13
3. 地域分布・性別割合・婚姻状況などに関する集計…………… 21
4. 作業所に関する知識や利用経験などに関する集計…………… 33
5. 断酒のための支援を希望する事項について…………… 39

研究報告書

アルコール依存症のリハビリテーション施設と支援プログラムの在り方に関する研究

主任研究者 白倉 克之 国立療養所久里浜病院名誉院長

研究要旨:

【目的】本研究はアルコール依存症における社会復帰に関する基礎資料提供を目的とする。すなわち、社会復帰施設の数、利用者数、実施されているプログラムや回復率など施設の現状や施設を必要とするアルコール依存症の特徴と数の推計が主な目的である。研究は、① アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成、② 社会復帰施設の現状に関する調査、③ アルコール依存症における施設の必要性に関する調査の3つのテーマに関して行われた。

【方法】1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成は各都道府県および政令指定市の精神保健福祉センターに調査票を郵送して回答を求めた。調査票の内容は社会復帰施設について、① 管内のすべての施設、② アルコール依存症を主体とした施設、③ 薬物や他のアディクション患者を対象にした施設、④ アルコール依存症が主たる対象ではないが利用を受け入れている施設、ごとに分けてそれぞれの数を記入してもらい、リストを提供してもらった。2) 社会復帰施設の現状に関する調査: 得られた情報をもとに各施設の現状について調査を行う予定であったが、単年度という時間的制約のため本研究では施設の所在地、数を確認するにとどまった。3) アルコール依存症における施設の必要性に関する調査 は断酒会会員の協力を得て断酒会に参加するアルコール依存症者を対象として作業所を中心とするアンケート調査を行った。調査は自記式で、対象は東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県の1,500名の断酒会員である。

【結果】1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成 全国の精神保健福祉センターから回答が得られ、アルコール依存症を対象とする施設名、所在地などに関する情報を得た。全国の合計は277施設であり、その分布は都道府県や地域によりバラツキが大きいことがわかった。2) アルコール依存症における施設の必要性に関する調査 回収された調査票は1,500（男性1,401名、女性99名）であり、回収率は各地域で最低でも52.3%であった。作業所について知っているとは回答したものは全体の80.2%であり、過去を含めて利用した経験のあるものは15.8%、作業所を利用したいと回答したものは24.2%であった。現在必要な援助として希望の多かったものを挙げると、最も多かったのは断酒の仲間作りで78.8%の断酒会員が必要と回答している。次いで悩み事の相談、断酒に関するアドバイス、規則正しい生活の援助が続く。作業所に関する知識や利用状況は地域によって異なる。作業所について知っているとは回答したものは関西（82.9%）に多く、関東で少ない（75.3%）であった。作業所の利用を希望するものは関西で26.6%であったのに対して関東では18.2%と少数であった。以上より多くの者が、リハビリテーション施設で支援可能な援助を求めていることが明らかになったが、施設の必要性は関東圏と関西圏では大きく異なっており、その違いは関西圏で単身者が多いなど個人の生活状況に関係していることが予想された。

【結論】本研究班は、アルコール依存症の社会復帰施設に関する現状およびアルコール依存症における社会復帰施設の必要性や適応などについて検討するための基礎資料提供をその目的としている。その目的を達成するために、まず全国の社会復帰施設についてその全体および都道府県別の数を明らかにした。その結果、全国で277の施設が存在すること、地域によって数にばらつきが大きいことがわかった。作業所の利用に関する断酒会員を対象としたアンケート調査では80%を超えるアルコール依存症者が作業所のことを知っており、4人に1人の割合で作業所の利用を希望しているが、実際に利用しているものまたは利用経験のあるものの割合は16%にとどまることがわかった。作業所の利用希望に関しては地域差があり、関西圏で希望するものの割合が高いことがわかった。さらに作業所とは別に断酒のためにアルコール依存症者が望む援助として仲間作りや悩み事の相談、断酒に関するアドバイスなど、作業所などの社会復帰施設で提供可能な要望が多いことがわかった。これらの研究結果は、行政施策などの場で活用しようと思われる。しかし、今回の調査は期間や予算の面で制限があり、十分な検討がなされたとは言えない。今後、今回の調査によって得られた情報を基にさらにアルコール依存症の社会復帰施設に関して検討することが望まれる。

## 分担研究者

白倉克之 国立療養所久里浜病院

橋本勝之 全日本断酒連盟

田所溢丕 全日本断酒連盟

樋口 進 国立療養所久里浜病院

松下幸生 国立療養所久里浜病院

## 研究協力者

藤田さかえ 国立療養所久里浜病院

岩本亜紀子 国立療養所久里浜病院

館内由枝 国立療養所久里浜病院

斎藤恵津子 国立療養所久里浜病院

## A. 研究目的

アルコール依存症は現在我が国に少なく見積もっても240万人存在するという調査結果があるほど、物質依存の中でも最も患者数の多い疾患である。その症状は単にアルコールに依存するといった精神症状に限らず多岐におよび、外来で治療可能な段階のものから入院治療を行ってもなお障害が残るものまでさまざまである。アルコール依存症でみられる障害の内容は、肝障害、心不全、糖尿病などの身体障害の他、脳梗塞、脳内出血、脳挫傷といった脳血管障害に加えて長年の大量飲酒によるアルコール性痴呆とも言うべき高次脳機能障害も含まれるなど多種多様である。その点でも他の精神疾患にはない特徴を有すると言える。このようにアルコール依存症も障害の面から検討すべき疾患であるが、医療面からの調査・研究は活発に行われてきたものの障害面での調査はほとんど行われていない。

アルコール依存症の治療方法は集団精神療法や抗酒剤の服用など医療施設において行われるもののみならず、アルコホリック・アノニマス(AA)や断酒会といった自助グループが存在し、アルコール依存症者の回復に貢献している。アルコール依存症は従来、断酒することによって社会生活が可能になると信じられてきた。実際に多くの依存症者は断酒することによって社会生活が可能になる。しかし、その一方で長年の飲酒による障害のために医療機関における治療終了後も社会復帰が困難で断酒の継続や社会復帰を目的としたリハビリテーションのために精神障害者社会復帰施設を利用することが必要となる者も数多く存在する。近年、障害者プランなどによって精神障害者の社会復帰施設の整備は積極的に進められてきた。しかし、これらの施設の多くは統合失調症など

のいわゆる内因性精神疾患を対象としたものである。アルコール依存症の場合、目的が社会復帰であっても断酒継続が第一条件であることは当然であり、その点で内因性精神疾患とは対応が異なる場合がある。また、上述のようにアルコール依存症にみられる障害は多岐に及ぶため、内因性の精神疾患を対象とした精神障害者社会復帰施設では対応しきれないところも多い。このような背景からアルコール依存症に関しては利用可能な社会復帰資源は整備が進んでおらず、数の不足が指摘されている。本研究はアルコール依存症者が回復するために必要な社会資源に関して調査を行うことを目的として、以下の点について検討した。1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成、2) 社会復帰施設の現状に関する調査、3) アルコール依存症者における施設の必要性に関する調査。

## B. 研究方法

### 1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成

各都道府県(N=49)および政令指定市(N=13)の精神保健福祉センターに調査票(添付文書1)を郵送して回答を求めた。調査票の内容は社会復帰施設について、①管内のすべての施設、②アルコール依存症を主体とした施設、③薬物や他のアディクション患者を対象にした施設、④アルコール依存症が主たる対象ではないが利用を受け入れている施設、ごとに分けてそれぞれの数を記入してもらい、②、③、④については、そのリストを提供してもらった。

### 2) 社会復帰施設の現状に関する調査

得られた情報をもとに各施設の現状について調査を行う予定であったが、単年度という時間的制約のため本研究では施設の所在地、数を確認するにとどまった。研究計画としては、以下のような点について施設の調査を行う予定である。①施設の基本的な状況について:運営主体、開所年月、昨年度の予算、施設の定員など、②施設利用者の状況:昨年度利用者の内訳、施設利用期間、退所状況、飲酒の状況など、③施設の活動内容:プログラムの内容、自助グループとの連携など、④職員数および研修:常勤・非常勤別職員数、依存症回復者の割合、施設内および施設外研修の実態など、⑤断酒会員に対する調査とほぼ同じ内容の調査項目:家族・社会的背景、必要な援助、断酒の危機的状況など、⑥通所していることのメリット・デメリット:断酒の継続、経済的状況、家

族状況など。

### 3) アルコール依存症における施設の必要性に関する調査

理想的にはすべてのアルコール依存症を代表するサンプルに対して、各リハビリテーション施設の必要性を調査すべきであるが、調査期間や研究費などの制約から、本研究では断酒会会員の協力を得て断酒会に参加するアルコール依存症者を対象として作業所を中心とするアンケート調査を行った。調査は自記式で、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県の1,500名の断酒会員に対して行なった。調査の具体的な内容については、以下の通りである。①家族・社会的背景（年齢・性別、断酒会歴・医療機関への通院等、家族状況、職業・経済的状況）②アルコールリハビリ作業所に関する認識（作業所を知っているか、作業所を利用したことがあるか、作業所があれば、利用したいか）③リハビリ施設の利用を踏まえ、現在必要な援助（断酒に関するアドバイス、食事の提供、経済的不安に対する相談、就労支援、仲間と一緒に生活できる場（宿泊可）など14項目の質問）④断酒の危機を感じる時（ひとりになった時、人間関係でストレスがあった時、飲み屋の前を通った時、テレビでお酒のコマーシャルが流れた時、眠れない時など18項目の質問）。調査票の内容については添付文書2を参照されたい。

## C. 研究結果および考察

結果および考察については分担研究ごとにまとめる。

### 1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成

各都道府県（N=49）および政令指定市（N=13）の精神保健福祉センターに調査票を郵送し回答を求めた。内容は、社会復帰施設について、①管内のすべての施設、②アルコール依存症を主体とした施設、③薬物や他のアディクション患者を対象にした施設、④アルコール依存症が主たる対象ではないが利用を受け入れている施設、ごとに分けてそれぞれの数を記入してもらい、②、③、④については、そのリストを提供してもらった。全国の精神保健福祉センターから回答が得られ、アルコール依存症を対象とする施設名、所在地などに関する情報を得た。都道府県別の施設数は以下の通りである。北海道12、青森県16、岩手県0、宮城県7、秋田県4、山形県1、福島県1、茨城県2、栃木県3、群馬県2、埼玉県1、千葉県8、東京都19、神奈川県18、新潟県2、長野県8、山梨県13、静岡県4、愛知県19、岐阜県

9、富山県0、石川県3、福井県0、三重県2、滋賀県0、京都府1、大阪府11、兵庫県6、和歌山県1、鳥取県10、島根県19、岡山県2、広島県10、山口県1、香川県13、徳島県0、愛媛県0、高知県10、福岡県16、佐賀県6、長崎県4、熊本県1、大分県2、宮崎県2、鹿児島県5、沖縄県3で全国の合計は277施設であった。

わが国には、アルコールまたは薬物依存症者が利用できるリハビリテーション施設は最大で277施設存在することが明らかになった。その分布は都道府県や地域によりバラツキが大きいことがわかった。

### 2) 社会復帰施設の現状に関する調査

得られた情報をもとに各施設の現状について調査を行う予定であったが、単年度という時間的制約のため本研究では施設の所在地、数を確認するにとどまった。研究計画としては、以下のような点について施設の調査を行う予定である。

- ① 施設の基本的な状況について：運営主体、開所年月、昨年度予算、施設の定員など
- ② 施設利用者の状況：昨年度利用者の内訳、施設利用期間、退所状況、飲酒の状況など
- ③ 施設の活動内容：プログラムの内容、自助グループとの連携など
- ④ 職員数および研修：常勤・非常勤別職員数、依存症回復者の割合、施設内および施設外研修の実態など
- ⑤ 断酒会員に対する調査とほぼ同じ内容の調査項目：家族・社会的背景、必要な援助、断酒の危機的状況など
- ⑥ 通所しているこのとのメリット・デメリット：断酒の継続、経済的状況、家族状況など

### 3) アルコール依存症における施設の必要性に関する調査

理想的にはすべてのアルコール依存症を代表するサンプルに対して、各リハビリテーション施設の必要性を調査すべきであるが、調査期間や研究費などの制約から、本研究では断酒会会員の協力を得て断酒会に参加するアルコール依存症者を対象として作業所を中心とするアンケート調査を行った。調査は自記式で、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県の1,500名の断酒会員に対して行なった。調査の具体的な内容については、以下の通りである。

①家族・社会的背景（年齢・性別、断酒会歴・医療機関への通院等、家族状況、職業・経済的状況）②アルコールリハビリ作業所に関する認識（作業所を知っているか、

作業所を利用したことがあるか、作業所があれば、利用したいか) ③リハビリ施設の利用を踏まえ、現在必要な援助(断酒に関するアドバイス、食事の提供、経済的不安に対する相談、就労支援、仲間と一緒に生活できる場(宿泊可)など14項目の質問) ④断酒の危機を感じる時(ひとりになった時、人間関係でストレスがあった時、飲み屋の前を通った時、テレビでお酒のコマーシャルが流れた時、眠れない時など18項目の質問)。

これらの都府県断酒会の名簿には2,866名の会員登録があったが、名前だけの会員も相当数にのぼる。実際に回収された調査票は1,500(男性1,401名、女性99名)であり、回収率は最低でも52.3%であった。

作業所について知っているとは回答したものは全体の80.2%であり、過去を含めて利用した経験のあるものは15.8%、作業所を利用したいと回答したものは24.2%であった。現在必要な援助として希望の多かったものを挙げると、最も多かったのは断酒の仲間作りで78.8%の断酒会員が必要と回答している。次いで悩み事の相談、断酒に関するアドバイス、規則正しい生活の援助が続く。

作業所に関する知識や利用状況は地域によって異なる。作業所について知っているとは回答したものは関西(82.9%)に多く、関東で少ない(75.3%)であった。利用経験のあるものも関西では17.7%にのぼるが、関東では11.1%にとどまっていた。このような状況を反映するためか作業所の利用を希望するものは関西で26.6%であったのに対して関東では18.2%と少数であった。

断酒に必要な援助の項目では希望する回答の多かった項目(仲間作り、悩み事の相談、断酒に関するアドバイス)では地域差はみられなかった。

多くの者が、リハビリテーション施設で支援可能な援助を求めていることが明らかになった。リハビリテーション施設の必要性は関東圏と関西圏では大きく異なっており、その違いは、個人の生活状況に関係しているように見えた。

#### D. 結論

##### 1) アルコール依存症を対象とした社会復帰施設のリスト作成

今回の調査によって我が国におけるアルコール依存症を対象とする社会復帰施設の全体数や都道府県ごとの数が初めて明らかになった。今後、得られた情報を基に各施設に協力を依頼して利用者数、運営状況、実施されているプログラム内容、断酒や社会復帰における効果など

についてさらに調査を行い、我が国におけるアルコール依存症者を対象とした社会復帰施設の現状について調査を進めていく予定である。このような調査によって我が国の社会復帰施設が受け入れ可能なアルコール依存症者数が明らかになり、さらにその有用性を検討することが可能になる。

##### 2) アルコール依存症における施設の必要性に関する調査

今回の調査では断酒会に参加しているアルコール依存症者のみの調査であったが、今後は専門病院などの協力を得てアルコール依存症全体を代表するサンプルを対象として社会復帰施設の必要性について検討する。このような調査によって社会復帰施設を必要とするアルコール依存症者数が明らかになり、上述の施設数と比較することによってその過不足が明らかになると期待される。さらに現在は施設利用に関するガイドラインは存在せず、各治療施設や福祉施設において経験に基づいて個々に処遇方針を決定しているのが現状である。アルコール依存症者本人や社会復帰施設における回復率を調査することなどによって施設を必要とするアルコール依存症の特徴が明らかになり、社会復帰施設の医学的適応に関する基準を作成することが可能になると期待される。

#### E. 研究発表

##### 1) 国内

口頭発表	0件
原著論文による発表	0件
それ以外の発表	0件
主な発表	

論文： なし

学会： なし

##### 2) 海外

口頭発表	0件
原著論文による発表	0件
それ以外の発表	0件
主な発表： なし	

#### F. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

1. 特許取得： なし
2. 実用新案登録： なし
3. その他： なし

## アルコール依存症社会復帰施設に関するアンケート調査

わが国におけるアルコール依存症者と対象とした社会復帰施設に関する全国調査を行なっております。このアンケートでは貴センターの管轄地域内（都道府県・政令指定都市）で運営されている精神障害者を対象とした社会復帰施設および生活保護法による救護・更正施設の全体数と、その中でアルコール依存症者を対象とした施設の総数およびその連絡先をご回答願います。施設は平成15年10月1日現在運営されている施設でお願いいたします。

お忙しい中を恐縮ですが、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 1. 貴機関の名称・所在地

名称 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 県 \_\_\_\_\_ 市

### 2. 管轄地域内にある下記の施設数を種別にご記入下さい。

#### A. 精神障害者社会復帰施設（アルコール・薬物に限らず全ての施設数をご記入下さい）

施設種類	施設数	施設種類	施設数
① 生活訓練施設（援護寮）	( )	⑥ 地域生活支援センター	( )
② 福祉ホーム	( )	⑦ 通所授産施設	( )
③ 入所授産施設	( )	⑧ 作業所	( )
④ 福祉工場	( )	⑨ 福祉工場	( )
⑤ グループホーム	( )		

#### B. 生活保護施設（アルコール・薬物に限らず全ての施設数をご記入ください）

施設種類	施設数	施設種類	施設数
① 救護施設	( )	③ 宿泊提供施設	( )
② 更生施設	( )	④ その他（具体的に _____ )	( )

## 3. 2の施設のうち下記に相当する施設数をご記入下さい

## A. アルコール症者を主たる対象としている施設数

施設種類	施設数	施設種類	施設数
① 生活訓練施設（援護寮）	( )	⑧ 福祉工場	( )
② 福祉ホーム	( )	⑨ 作業所（マック、ダルクなど含む）	( )
③ 入所授産施設	( )	⑩ 救護施設	( )
④ 福祉工場	( )	⑪ 更生施設	( )
⑤ グループホーム	( )	⑫ 宿泊提供施設	( )
⑥ 地域生活支援センター	( )	⑬ その他（具体的に	( )
⑦ 通所授産施設	( )	_____)	( )

## B. 薬物・その他のアディクションを対象としている施設数

施設種類	施設数	施設種類	施設数
① 生活訓練施設（援護寮）	( )	⑧ 福祉工場	( )
② 福祉ホーム	( )	⑨ 作業所（マック、ダルクなど含む）	( )
③ 入所授産施設	( )	⑩ 救護施設	( )
④ 福祉工場	( )	⑪ 更生施設	( )
⑤ グループホーム	( )	⑫ 宿泊提供施設	( )
⑥ 地域生活支援センター	( )	⑬ その他（具体的に	( )
⑦ 通所授産施設	( )	_____)	( )



## C. アルコール症者が主たる対象ではないが利用を受け入れている施設数

施設種類	施設数	施設種類	施設数
① 生活訓練施設（援護寮）	( )	⑧ 福祉工場	( )
② 福祉ホーム	( )	⑨ 作業所（マック、ダルクなど含む）	( )
③ 入所授産施設	( )	⑩ 救護施設	( )
④ 福祉工場	( )	⑪ 更生施設	( )
⑤ グループホーム	( )	⑫ 宿泊提供施設	( )
⑥ 地域生活支援センター	( )	⑬ その他（具体的に _____）	( )
⑦ 通所授産施設	( )		

4. 3に該当する施設（アルコール症や薬物を主たる対象とする施設、または部分的にでも受け入れている施設）すべてについて、施設名、住所、電話番号をご記入お願い致します。記入欄が不足の場合は、恐れ入りますがコピーをお願い致します。

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

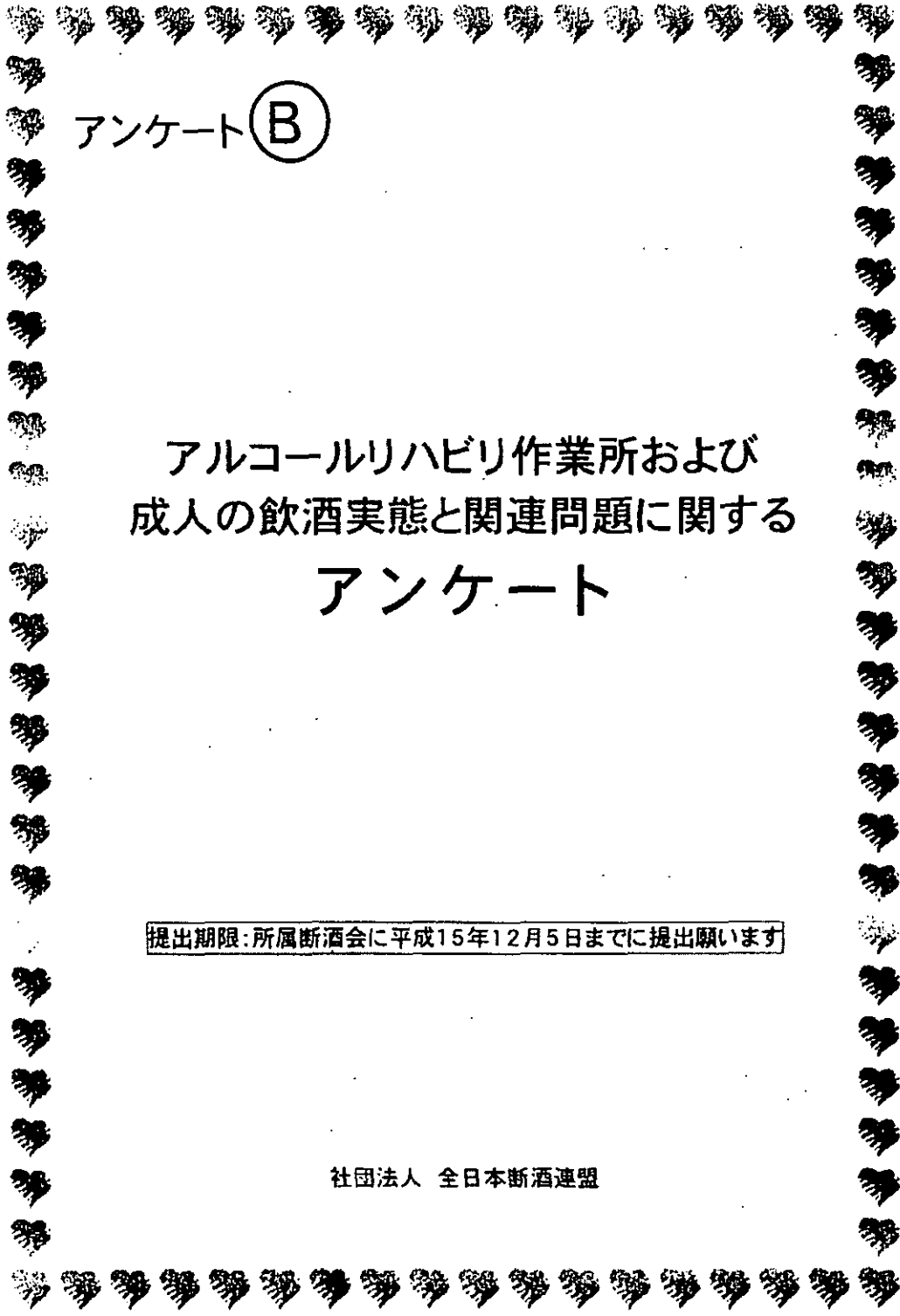
施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	

施設名	
施設住所	〒
電話番号	



アンケート①

アルコールリハビリ作業所および  
成人の飲酒実態と関連問題に関する  
アンケート

提出期限：所属断酒会に平成15年12月5日までに提出願います

社団法人 全日本断酒連盟

断酒会会員各位

**アンケート調査のお願い**

全断連では厚生労働科学研究費の助成を受け、国立療養所久里浜病院と共同で「アルコールリハビリ作業所の在り方」の調査研究をしております。また、これとは別に、久里浜病院が行っている厚生労働科学研究「成人の飲酒実態と関連問題の予防に関する研究」に協力しております。その一環としてお手数ですが、下記アンケートにご協力をお願いいたします。

これらの調査研究の成果が作業所の開設・アル症の予防対策に反映されます。どうぞご理解のうえアンケートに最後までご記入をお願いいたします。調査は無記名で個人のデータが発表されることは一切ありません。

社団法人 全日本断酒連盟 理事長 橋本 勝之  
国立療養所久里浜病院 臨床研究部長 樋口 進

提出：所属断酒会に平成15年12月5日までに提出願います。

各質問に対して、該当するものに○をつけて下さい。また、必要な場合には、( ) に記述してください。まず、あなたご自身のことをおうかがいします。

- 1) あなたのお住まいはどちらですか。都道府県のみをお答えください。( \_\_\_\_\_ )
- 2) あなたの年齢を教えてください。 満 ( \_\_\_\_\_ ) 歳
- 3) あなたの性別を教えてください。 1. 男性 2. 女性
- 4) あなたは断酒会に入会してどのくらいになりますか。( \_\_\_\_\_ ) 年 ( \_\_\_\_\_ ) ヶ月
- 5) あなたの今までの断酒期間をお教えてください。( \_\_\_\_\_ ) 年 ( \_\_\_\_\_ ) ヶ月
- 6) 結婚についておうかがいします。現在、結婚していますか。  
1. 未婚 2. 既婚 (離婚した方も含めて)
- 7) おひとりですらしていますか。もしくはどなたかと同居されていますか。  
1. ひとりですらしている。  
2. 家族と一緒に暮らしている。  
一緒に暮らしている方すべてに○をつけてください。  
父 母 妻 夫 子供  
兄弟姉妹 孫 友人 内縁の妻 内縁の夫  
その他(具体的には： \_\_\_\_\_ )
- 8) あなたの現在の仕事の状況をお教えてください。  
1. フルタイム(定職についている)  
2. パートまたはアルバイト  
3. 主婦  
4. 無職  
5. その他(具体的に： \_\_\_\_\_ )





- 24) 昼間の例会・ミーティングがあったら良い。 1. はい 2. いいえ
- 25) 畑仕事や軽い運動などが出来る場があったら良い。 1. はい 2. いいえ
- 26) 仲間と一緒に生活できる場(宿泊可)があったら良い。 1. はい 2. いいえ
- 27) その他、助かる援助がありましたらお書き下さい。( \_\_\_\_\_ )

あなたはどんな時に、断酒の危機を感じますか (問 28 から問 44 まで)。

- 28) ひとりになった時。 1. はい 2. いいえ
- 29) 人間関係でストレスがあった時。 1. はい 2. いいえ
- 30) カッとしたり、イライラした時。 1. はい 2. いいえ
- 31) 冠婚葬祭など、お酒のある席に出た時。 1. はい 2. いいえ
- 32) スーパーやキヨスクなどで、お酒を売っているのを見た時。 1. はい 2. いいえ
- 33) 飲み屋の前を通った時。 1. はい 2. いいえ
- 34) テレビでお酒のコマーシャルが流れた時。 1. はい 2. いいえ
- 35) おなかがすいた時。 1. はい 2. いいえ
- 36) のどが潤いた時。 1. はい 2. いいえ
- 37) 肉体的に疲労を感じた時。 1. はい 2. いいえ
- 38) 眠れない時。 1. はい 2. いいえ
- 39) お酒を飲んでいた頃の良い思い出を思い出した時。 1. はい 2. いいえ
- 40) 飲んでいる人を近くで見た時。 1. はい 2. いいえ
- 41) 旅行・出張などで家から遠くはなれた時。 1. はい 2. いいえ
- 42) 店先などで、宣伝で酒をすすめられた時。 1. はい 2. いいえ
- 43) 理由なく、なんとなく飲みたくなることがある。 1. はい 2. いいえ
- 44) その他断酒の危機と感じたことがあれば、お書き下さい。( \_\_\_\_\_ )
- 45) 断酒の危機について、現在最も援助が必要だと思うのは1日のうち、いつですか。
- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1. 朝の5時から9時   | 2. 朝の9時から夕方5時までの昼間 |
| 3. 夕方5時から寝るまで | 4. 夜中              |
| 5. なし         | 6. その他 ( _____ )   |

次に、「成人の飲酒実態と関連問題の予防」研究についてお聞きします。

アルコール依存症のスクリーニングテストは、アルコール関連問題の早期発見などに広く使われています。現在、わが国で最もよく使われているテストは、久里浜式アルコール症スクリーニングテスト(KAST、カストと略します)です。しかし、このテストが作られたのは今から 25 年以上前であつて元来男性を念頭において作成されたため、女性に対する使用に疑問の声も上がっていました。そこで今回、KAST の改訂および女性版 KAST の作成を行なうことになりました。本調査は、その基礎資料となる重要な調査です。(25 年前も断酒会がデータを提供しております)

同じような内容の質問をくりかえしたり、あなたご自身にあまり関係のない内容をたずねたりしますが、学術研究調査という目的をご理解いただき、最後まで1問ずつお答えください。

以下の各項目について、最もあてはまる回答の番号に○をつけてください。

注：入会前の飲酒している時の状況をお答えください

A1. あなたはふだん酒類(アルコール含有飲料)を、平均するとどのくらいの頻度で飲んでいましたか。

1	2	3	4	5
まったく 飲まない	1ヵ月に 1回以下	1ヵ月に 2~4回	1週間に 2~3回	1週間に 4回以上

A2. 飲酒していたときには、通常どのくらいの量を飲んでいましたか。次の表を参考に教えてください。

・「日本酒」1合=2単位			・「ビール」大瓶1本= 2.5単位		
・「ウイスキー」水割りダブル1杯=2単位			・「焼酎」お湯割り1杯=1単位		
・「ワイン」グラス1杯= 1.5単位			・「梅酒」小コップ1杯=1単位		
1	2	3	4	5	6
まったく 飲まない	1~2単位 以下	3~4単位	5~6単位	7~9単位	10単位 以上

A3. 1度に6単位以上飲酒することがありましたか。あったとすればどのくらいの頻度でしたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A4. 飲み始めたらやめられなかったということが、入会前1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A5. 普通の状態だとできることを、飲酒していたためにできなかったということが、入会前1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A6. 深酒の後で体調を整えるために、翌朝飲酒(迎え酒)をしなくてはならなかったことが、入会前1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A7. 飲酒後、罪悪感や自責の念にかられたことが、入会前1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A8. 飲酒のため前夜の出来事を思い出せなかったことが、入会前1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

1	2	3	4	5
ない	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A9. あなたの飲酒のために、あなた自身か他の誰かがけがをしたことがありますか。

1	2	3
ない	あるが、入会前1年間にはなかった	入会前1年間にあった

A10. 肉親や親戚、友人、医師、あるいは他の健康管理にたずさわる人が、あなたの飲酒について心配したり、飲酒量を減らすようにすすめたりしたことがありますか。

1	2	3
ない	あるが、入会前1年間にはなかった	入会前1年間にあった

C1. 次の中から、あなたが入会前に経験したことがあるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがある
- 2 他人があなたの飲酒を非難するので気にさわったことがある
- 3 自分の飲酒について、悪いとか申しわけないと感じたことがある
- 4 神経を落ち着かせたり、二日酔いを治すために「迎え酒」をしたことがある
- 5 どれも経験がない

あなたの入会前6ヵ月の状況について、以下のK1～K52の質問にお答えください。

ほとんどの質問は「はい」か「いいえ」のどちらかを選ぶ形式です。あてはまる回答の番号を1ずつ○でかこんでください。自分に関係のない質問であれば、「いいえ」を選んでください。

- |      |   |   |      |   |       |   |           |
|------|---|---|------|---|-------|---|-----------|
| K1.  | 酒が原因で、大切な人(家族や友人)との人間関係にひびが<br>はいったことがある    | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K2.  | せめて今日だけは酒を飲むまいと思っても、つい飲んでし<br>まうことが多い       | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K3.  | 周囲の人(家族、友人、上役など)から大酒飲みと非難さ<br>れたことがある       | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K4.  | 過量でやめようと思っても、つい酔いつぶれるまで飲んで<br>しまう           | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K5.  | 酒を飲んだ翌朝に、前夜のことをとところどころ思い出せな<br>いことがしばしばある   | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K6.  | 休日には、ほとんどいつも朝から酒を飲む                         | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K7.  | 二日酔いで仕事を休んだり、大事な約束を守らなかったり<br>したことが時々ある     | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K8.  | 糖尿病、肝臓病、または心臓病と診断されたり、その治療<br>を受けたことがある     | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K9.  | 酒がきれたときに、汗が出たり、手が震えたり、いらいら<br>や不眠など苦しいことがある | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |
| K10. | 商売や仕事上の必要で飲む                                | 1 | よくある | 2 | たまにある | 3 | あまり(全く)ない |
| K11. | 酒を飲まないと寝つけにくいことが多い                          | 1 | はい   | 2 | いいえ   |   |           |

K12.	ほとんど毎日3台以上の晩酌(ウイスキーなら1/4本以上、ビールなら大びん3本以上)をしている	1	はい	2	いいえ
K13.	酒のうへの失敗で、警察の厄介になったことがある	1	はい	2	いいえ
K14.	酔うといつも怒りっぽくなる	1	はい	2	いいえ
K15.	人に恩をきせられても、腹をたてたことはない	1	はい	2	いいえ
K16.	自分の飲み方は正常だと思う	1	はい	2	いいえ
K17.	自分の飲酒についてうしろめたさを感じたことがある	1	はい	2	いいえ
K18.	飲酒の場所と時間を一定にきめようと試みたことがある	1	はい	2	いいえ
K19.	飲酒を止めようと思えばいつでもやめられる	1	はい	2	いいえ
K20.	飲酒中に争いに巻き込まれたことがある	1	はい	2	いいえ
K21.	飲酒が原因で仕事中に問題を起したことがある	1	はい	2	いいえ
K22.	飲酒運転のためにつかまったり、事故を起こしたことがある	1	はい	2	いいえ
K23.	自分のしたことを他人のせいにしたことはない	1	はい	2	いいえ
K24.	酒を止める必要性を感じたことがある	1	はい	2	いいえ
K25.	医師からアルコールを控えるように言われたことがある	1	はい	2	いいえ
K26.	食事は1日3回、ほぼ規則的にとっている	1	はい	2	いいえ
K27.	酒を飲まなければいい人だとよく言われる	1	はい	2	いいえ
K28.	少なくとも週に1日は二日酔いをしている	1	はい	2	いいえ
K29.	人との付き合いが減ってきた	1	はい	2	いいえ
K30.	酒の量を減らそうとしたり、酒を止めようと試みたことがある	1	はい	2	いいえ
K31.	飲んででも問題をおこさない人を見るとうらやましく思う	1	はい	2	いいえ
K32.	飲まない方がよい生活を送れそうだと思う	1	はい	2	いいえ
K33.	アルコールを飲んだ方が頭がさえる	1	はい	2	いいえ
K34.	自分の知らないことを知らないと認めるのは気にならない	1	はい	2	いいえ
K35.	アルコールを飲んだ方が体がよく動く	1	はい	2	いいえ
K36.	仕事を休むためによく言いわけをする	1	はい	2	いいえ
K37.	飲み続けた後で、自分に対して怒ることがある	1	はい	2	いいえ
K38.	仕事がつらい時には飲酒する	1	はい	2	いいえ
K39.	アルコールを買うために家計を操作したことがある	1	はい	2	いいえ
K40.	家事をする前に飲酒する	1	はい	2	いいえ
K41.	夫がいない時にはほっとする	1	はい	2	いいえ
K42.	私のしていた仕事をまわりの人がするようになった	1	はい	2	いいえ
K43.	食事を作る前に酒を飲むことがある	1	はい	2	いいえ
K44.	不安を解消するにはアルコールが一番よいと思う	1	はい	2	いいえ
K45.	たとえ気にくわない人であっても、礼儀正しくしている	1	はい	2	いいえ
K46.	家族から酒に関して注意されることがしばしばある	1	はい	2	いいえ
K47.	家族に隠すようにして、酒を飲むことがある	1	はい	2	いいえ
K48.	飲酒しながら、仕事、家事、育児をすることがある	1	はい	2	いいえ
K49.	悩みやストレスから逃れるには酒が必要だ	1	はい	2	いいえ
K50.	朝酒や昼酒の経験が何度かある	1	はい	2	いいえ
K51.	1日のなかで、酒のことを考えている時間が多い	1	はい	2	いいえ
K52.	時々むちゃ食いをしたくなる	1	はい	2	いいえ

ありがとうございました。最後にもう一度、記入もれがないかご確認ください。